



臨床のきれはし

SHEET34
浅田 英輔

The Compounding Detour

何人かの大学の先生から「臨床心理学科の学生が、心理学以外の話を聞こうとしない」という話を聞いた。「それは心理学に関係ありますか？」とか言われるようだ。まるで関係ない分野ならまだしも、社会学関連などもダメだったりするそうだ。

これも、コストパフォーマンス、タイムパフォーマンスの話になるのだろう。公認心理師の資格を取るだけであれば、社会学の勉強は不要なのかもしれない。ましてや、日常生活のことは試験に出ないのだろう。

でも、我々が相手にするのは生きている人、生活している人たちである。「精神病の人」が困っているのは、病気そのものだけではないはずだ。そもそも、その病気のことだって、「脳のこの部分が不具合を起こしているからそこを治す」というたぐいのものではない。社会、地域、家族なども考慮してかわる必要があることも学ぶ必要がある。むしろ、何を学んでも治療的にかかわりの邪魔になることはないのではないだろうか。よりよい臨床家になるには、心理学の知識だけで足りるはずがなく、心理学のみ学ぼうとすることは、結果的に非常にコストパフォーマンスが悪いことになるのだ。

コスパ・タイパを求める話をよく耳にする。毎回、「それってほんとにコスパいいの??」という疑問が沸く。

仕事でも、「これって意味あるんですか?」とか「自分の成長に結びつかないですよね?」みたいなことを言う人はいる。もちろん、不合理で非効率なものはどんどん効率

化していけばいいのだが、「いまそういうやり方をしていること」だって、それなりに先人が工夫した結果であるともいえる。それを踏まえて考えてみたほうが、結局はコスパがよいことになるのではないだろうか。

いわば「表面的なコスパタイプ思考の人」-コスパニアンと呼ぶことにする-は、「今やろうとするものが、直接的に役に立つのか」という思考になるようだ。そういう人にとっては、実験心理などの基礎的な学問はタイパが悪いのだろうし、意味のあるものととらえられないのだろう。「イマドキの若者は」という論調で語られることも多いが、大人だって同じことをしていて、「通常業務が忙しいから外部研修に出さない」など、すぐ役に立つかわからないものからお金や時間が減らされていく。

世の中が表面的でわかりやすい因果関係のもとに動いているようにも感じられる。

コスパニアンは、目先のことにとらわれがちである。

「朝の挨拶なんて、コスパ悪くないですか? 中身ゼロです!」

たしかに「おはようございます」自体に情報量はない。でも、実は一番効くコミュニケーションだったりする。挨拶を省略した結果、その後の相談や報告がやりづらくなって、余計な気を遣う羽目になるなら、それは3秒をケチって、後で何倍もの時間を払っているだけなのではないか。実は、挨拶って一番コスパがよいのだ。

「職場の飲み会はコスパがわるい」

確かに億劫なことはあるだろうが、年2回くらいなら行ったほうがいい。お金はかかるし、おっさんの自慢話なんて聞きたくないけど、職場での円滑な人間関係を作っておいたほうが、絶対にコスパはいいはず。6割つまらないかもしれないけど、4割くらいは楽しいことも起きるのではないだろうか。「そんなことはない、10割すべてつまらん」ということであれば、そもそもそこはよい職場ではないのかもしれない。

「大学の授業なんて、やりたいとかじゃなくて、コスパよく単位がとれるかどうかでしょ」

大学って、専門の学部があるんだけど、そのほかの授業もとれるのが魅力である。専門で学んだこと以外の仕事についている人なんて、当たり前にとたくさんいるよね。幅を広げる機会を自ら捨てていつているかもしれない。

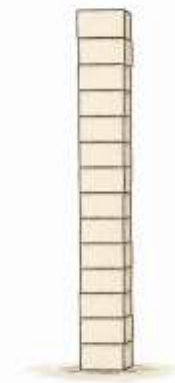
コスパニアンって、まず「それが役に立つかどうか」を考えているように思う。じゃあ、そうじゃない人ってどんな人だろう？

それは「おもしろそう」で動ける人なのだと思う。役に立つかどうかも考えたりするけど、まずは「なにそれおもしろそう！」で物事をはじめてしまう。結果として役に立つこともあるし、立たないこともある。「意味があるのかないのか」はあとからついてくるものではないだろうか。好奇心で動いちゃう人-キュリオニアン-としておこう。

キュリオニアンって、ぱっとみ、割に合わないこともたくさんする。寄り道もするし、仕事に関係ない集まりにも行ったりする。「なんとなく」とか「思いつき」で行動したり、誘われたらホイホイついていったりして、表面的なコスパはだいが悪いようにもみえるだろう。でも、そういう、とるに足らないものを、おもしろがってたくさんたくさん積み重ねて出来上がったものが大事なものであったりするのだ。必要なものだけを積み重ねたものはとても脆く、いわば、つぶしがきかない。うまくいかなかったとき、それしかないのでリカバリーが難しい。不要と思われるものも含めてたくさん積み重ねてあると、「こっちがだめならこっちいってみるか」ができるようになるし、それを楽しめる。

うまくいかなかったときだけではない。いろんな人のいろんな考えが理解できやすくなるのだ。視野が広くなるといいだろう。自分の広さの土台を作るのが、そういう、一見コスパが悪そうにみえるものの積み重ねなのだろう。たぶん、キュリオニアンでいたほうが人生は楽しくなる。もちろん、よりよい対人援助をするには、キュリオニアンたれ。

コスパニアン



キュリオニアン

